

# THE ROOF



クリストファー・ドレッサー  
《クラレット・ジャグ》  
1879年 ガラス、金属、電気メッキ  
当館蔵

## Contents

- 「クリストファー・ドレッサーと正倉院宝物」展—クリストファー・ドレッサーと正倉院宝物調査の謎—
- 「石田智子展」—紙漉が織りなす幻想的な世界—
- 寄稿 ワークショップ「手作りカホンでセッション」をふりかえって
- Report
- Information

# クリストファー・ドレッサーと

## 正倉院宝物調査の謎



クリストファー・ドレッサー  
《色絵椿文龍花瓶》  
1886年  
当館蔵



クリストファー・ドレッサー  
《トースト・ラック(青海波)》  
1879-80年  
当館蔵



クリストファー・ドレッサー  
《シュガー・ボウル》  
デザイン1866年  
豊田市美術館蔵



クリストファー・ドレッサー  
by permission of the Linnean Society of London

明治9年(1876)、一人の英国のデザイナーが日本を訪れました。彼の名はクリストファー・ドレッサー(1834-1904)。植物学者から装飾美術の世界へ転身し、19世紀の英国における最初のインダストリアル・デザイナーです。ドレッサーの来日には、いくつかの謎があります。その謎を解き明かしていこうというのが、この展覧会「クリストファー・ドレッサーと正倉院宝物」です。

### 第一の謎

#### 「明治天皇との拝謁」

ドレッサーは、英国から日本へ寄贈された315点の美術工芸品を携えて来日しました。この寄贈品は、日本に新設する博物館(後の東京国立博物館)のために贈られた品々でしたが、ドレッサーは、この寄贈品を選別し、そしてそれらを送り届ける役目を引き受けていました。

英国では新進気鋭のデザイナーでしたが、肩書きは一般人にすぎないドレッサーが、どうして天皇と面会できたのでしょうか？

実は、ドレッサーの来日に関して、彼を後押ししてくれる明治政府の高官たちがいたのです。特に西郷従道(西郷隆盛の弟)は、フィラデルフィア万国博覧会の日本団の副総裁だったので、北米からの帰りの船でドレッサーと一緒にになり、親しい間柄となっていました。西郷らの政府高官の後押しにより、ドレッサーは、内務卿の大久保利通に会うことができ、大久保の配慮で、明治天皇にも拝謁することができました。天皇は、ドレッサーにお言葉を述べられ、その文面は、ドレッサーの著書の挿絵に掲載されていますが、天皇がお言葉をお渡しになるといふことは、非常に稀なことであったそうです。

### 第二の謎

#### 「ドレッサーの日本視察の旅」

ドレッサーは、4ヶ月にわたる滞在中、明治政府のアドバイザーとなり、日本各地を視察するという役目を引き受けることになりました。ドレッサーの旅には、内山下町博物館の職員1名と通訳が1名つき、視察の費用は政府が全額支出しました。なぜ、政府はドレッサーにこの仕事を依頼したので

### 企画展

Christopher Dresser and Shōsō-in Treasures

# クリストファー・ドレッサーと正倉院宝物

正倉院に入ること許された、初めての西洋人

2019年11月16日[土] ⇒ 2020年1月26日[日]

前期:11月16日[土]~12月15日[日] 後期:12月17日[火]~1月26日[日]

開館時間:午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)  
休館日:毎週月曜日 ただし、1月13日(月・祝)は開館、1月14日(火)は休館  
12月28日(土)~1月3日(金)は、年末年始の休館

観覧料:一般1000円(800円) 高校・大学生、65歳以上800円(640円)  
※( )内は20名以上の団体料金 中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催:郡山市立美術館



「正倉院正倉」写真提供:宮内庁正倉院事務所

しようか？

明治政府は、貿易を拡大して外貨を獲得することが急務でしたので、日本の陶磁器や漆器などの工芸品を、欧米に輸出するための手段や改良の工夫を求めていたのです。ドレッサーは、こうした任務にうってつけの人物だったといえるでしょう。ドレッサーは多くの美術工芸品の生産地を訪れ、欧米へ輸出するための改良点を指摘しました。彼の提言は、政府の殖産興業政策に大きく貢献したといわれています。

### 第三の謎

#### 「ドレッサーの正倉院宝物の調査」

また、ドレッサーは、奈良の東大寺を訪れ、数多くの正倉院宝物を調査し、正倉院の建物の内部に入ることを許された、最初の西洋人となりました。

正倉院は、天皇の命令がなければ開けることができない、厳重に守られた建物です。なぜ、ドレッサーは正倉院の建物に入ることができたのでしょうか？

政府のアドバイザーという立場だけでは、とうてい無理な難題をクリアできた訳。それは、ドレッサーが正倉院を訪ねた6日後に、明治天皇が奈良に行幸して、正倉院の宝物を天覧しているからです。ドレッサーを正倉院に案内した内山下町博物館館長の町田久成

の思惑は、天皇が宝物をご覧になる前に、ドレッサーに宝物を見せて、その内容や作られた産地、そして世界的な視野からみた宝物の本当の価値を、ドレッサーに教えてもらおうとしたのではないのでしょうか。

帰国後、ドレッサーは日本滞在の経験を、1冊の本『日本―その建築、美術、工芸』（1882年）にまとめ、ヨーロッパに日本の建築や美術工芸品を正確に紹介しました。ドレッサーは、正倉院の宝物の美しさと価値の高さに驚嘆し、まだ近代的な調査や整理が進んでいなかった正倉院宝物の姿をこの本の中に書き残しました。

ドレッサーは、正倉院宝物を見た日のことを、こう記しています。

「1877年2月3日の土曜日は、私の人生の中で、最も素晴らしい日としていつまでも心に残っている。」

（当館副館長 佐藤秀彦）

#### ドレッサーの言葉

「この古い建物を見て最も心を打つのは、もしかすると、千年以上も存在し、そして少なくとも英国のそれと同様に厳しい環境にさらされてきた木材が、現在まで耐え、さらに驚くべきことに、ここに最初に建てられたときと同様今なお堅牢であるという事実かもしれない。」（『日本―その建築、美術、工芸』第3章より）



《螺鈿箱》  
1976-77-79(昭和51-52-54)年  
正倉院宝物模造品  
宮内庁正倉院事務蔵



《多彩釉花唐草貼付文飾壺》  
ミント  
19世紀後半  
東京国立博物館蔵  
Image:TNM Image Archives



《黄金瑠璃細背十二稜鏡》  
1932(昭和7)年  
正倉院宝物模造品  
奈良女子大学蔵

## 関連イベント

### 講演会

#### 「クリストファー・ドレッサーの来日と正倉院訪問」

日時: 11月24日(日) 午後2時から

講師: 佐藤秀彦(当館副館長)

場所: 多目的スタジオ(入場無料)

### ギャラリートーク

日時: 12月8日(日)、12月22日(日)、1月19日(日)

各日 午後2時から

講師: 当館学芸員

場所: 企画展示室(企画展チケットが必要です)

### 講演会

#### 「近代の正倉院宝物」

日時: 12月15日(日) 午後2時から

講師: 西川明彦さん(宮内庁正倉院事務所長)

場所: 多目的スタジオ(入場無料)

### 美術講座

#### 「明治初期の輸出工芸品」

日時: 1月12日(日)

午後2時から

講師: 当館学芸員

場所: 講義室(入場無料)

#### 「権力者たちと正倉院」

日時: 1月26日(日)

午後2時から

講師: 当館学芸員

場所: 講義室(入場無料)

# 石田智子展 — 紙繕こよりが織りなす幻想的な世界 —



過去の展示より

石田智子は、紙繕（こより）を幾層にも重ね合わせて、独自の世界を表出させる美術作家です。彼女が創り出す幻想的な作品は、国内外で高い評価を得ています。

三春町に嫁ぎ、寺という場所で暮らすことになった石田は、寺の膨大な仕事を日々こなすなかで、紙繕を作り始めます。お供え物の包装紙がきっかけとなり、制作の時間・素材・場所などすべてが、日常生活の営みと共存するかたちで始まった作業でした。やがて紙繕ひとつひとつを織るように組み合わせ、大きな力を持った壮大な作品が生み出されたのです。

石田の制作は、作品を展示する会

上：展示の構想を語る石田氏  
下：展示室を確認し、イメージする石田氏



場を実際に見て、イメージするところから始まります。空間をひとつの作品に作り上げるため、会場の状況や性格によって、作品の見せ方や展示方法が変わります。会場の特徴を活かしつつ、独自の空気を表現していくのです。また、作品に当てる照明も、とても重要な要素のひとつです。無数の紙繕が落とす影は、空間をより幻想的に演出します。こうしてできる彼女の作品は、観る者に圧倒的な印象を与えるでしょう。

本展では、紙繕の作品を主体としてご紹介します。郡山市立美術館の企画展示室がどのような空間に変貌するのでしょうか。展示室に広がる石田智子の世界をどうぞお楽しみください。

（新田量子）

## 石田智子（いしだともこ）

1958年大阪生まれ、三春町在住。

1982年に京都精華大学美術学部染織科を卒業後、ファイバーアーティストとして活躍。

1991年、作家で僧侶の玄侑宗久氏（臨済宗妙心寺派福聚寺住職）と結婚、限られた時間と空間を生かして紙繕（こより）による作品制作を始めた。国内外で作品を発表し、高く評価されている。

## 「共同制作」が進行中です！

「石田智子展」の会期中、企画展示室外の空間に、共同制作の作品を展示する予定です。紙を使って1人ひとつ制作した作品を窓のガラス面に設置し、つなぎ合わせて大きな作品にするというものです。

9月には小中学校の皆さんに制作の協力をしてもらいました。丸いフレームの中に、印刷物を帯状に断裁した紙の束を詰め込んでいくというシンプルな作業です。印刷物の束の断面は色とりどりで、様々な表情を見せます。たくさんのパーツを組み合わせていったいどのような作品に仕上がるのか、3月の完成をどうぞ楽しみに！



## 企画展

### 石田智子展

2020年 3月1日(日)～4月19日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日

観覧料：一般／500(400)円

高校・大学生、65歳以上／300(240)円

※( )内は20名以上の団体料金

中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館



## 常設展示

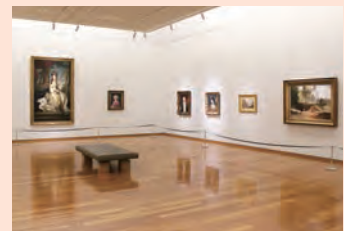
※2月1日(土)～2月29日(土)は、諸設備点検等のため臨時休館となります。

### 1月31日(金)まで

- 1 イギリス絵画—油彩と水彩
- 2 日本近代美術の黎明期
- 3 小特集：安藤重春のまなざし
- 4 イギリス版画の世界／佐藤潤一郎とガラス

### 3月1日(日)から

- 1 小特集：来日したイギリスの画家たち
- 2 大正・昭和—日本洋画の青春期
- 3 現代美術の表現
- 4 ブレイクとパーマー／ガラスの造形



表紙の  
作品



### クリストファー・ドレッサー 《クラレット・ジャグ》

1879年 ガラス、金属、電気メッキ 高さ：23.0 cm 当館蔵

本作品のような金属器は、ドレッサーのデザインを代表するものです。彼はさまざまな生活用品のデザインを手がけ、それが製造会社によって製品化されました。素材の特徴が活かされたシンプルかつ独創的な形態のデザインが、ドレッサーの金属器の魅力です。独特な3本足をもつ本作品は、ガラスからインスピレーションを得ています。

寄稿

# ワークショップ 「手作りカホンでセッション」 をふりかえって



段ボールカホン

「くまのパティントン展」にちなみ、パティントンのふるさと南米ペルーで生まれた楽器、カホンを作ってみんなで演奏しようというワークショップが開催されました。

## 【カホンとは?】

スペイン語で「ひき出し」の意味、200年以上前ペルーで生まれた箱型の打楽器。その発生は、まさに日常の道具からでした。当時アフリカ大陸から働き手として沢山の人が船に乗せられ、過酷な労働に従事しましたが、その合間、そこにあった「魚を運搬する引き出し」のような箱を叩いて音楽を楽しんだそうです。まさに、音楽は日常の中の癒し。高価な楽器がなくても、どこでも誰でも自由にできるものということ。その後、カホンは楽器として進化。今ではフラメンコをはじめ、ロックやポップスなどでも利用される本格的な打楽器となりました。

## 【段ボールが楽器になる?】

音楽や楽器演奏は特別な能力や恵まれた環境が無いとできないと言われる時があります。確かにそ



アドバイスをするジュンさん(多目的スタジオ)

う世界も一部ありますが、そうでない音楽も、もつとたくさん溢れています。私は民族楽器の研究をするうち、楽器も音楽も、身近なもので自由に音を楽しむところから始まっている

Jun S. / GypsyPot

(ジブシーポット)

民族楽器研究家・演奏家・  
東京都認定ヘブナーアーティスト



みんなでサプライズセッション(階段ホール)

ことに気づき、本格的演奏ができる手作り楽器を広めたいと思い、解説やワークショップを始めました。ご紹介した段ボールカホンは、「紙で座れる箱を作る」「太鼓のように響く仕掛けを入れる」ことで、ただの紙の箱がリズム楽器に生まれ変わります。

## 【手作り楽器は、二つ二つ違う個性の形】

今回ワークショップに親子で参加した皆さんは、とてもセンスが良い方ばかり。材料はサイズの違う段ボール。プラモデルのようにマニュアル通りに組立てれば出来る上がるキットでないの、個々が耐久性や構造を考えながら工夫しないとできません。それが全て見事に個性ある楽器として完成し、全員で音を出せた時は本当に感動でした。

【最後は美術館の中でのサプライズセッション】

メインイベントの階段ホールでの演奏は、来館のお客様にも、楽器や音楽の多様性と楽しさを知ってもらおう絶好の機会となりました。参加者のセンスの良さは演奏面でもまた驚くほど。叩くリズムをまねしてもらい、全員でワクワクする音の和を作ることができました。そこにペルーの名曲のメロディを載せて、一つの音楽を奏で、それを観覧の皆さんが暖かく包みこむ空間ができたことは、本当に素晴らしい体験で、私達にとっても大変有意義なワークショップでした。

※手作り楽器を解説しています。インターネットで「GypsyPot」と検索、「手作り楽器コーナー」へ



ワークショップ「手作りカホンでセッション」

日時:2019年8月17日(土)

講師:ジュンさんとシホさん(ジブシー・ポット)

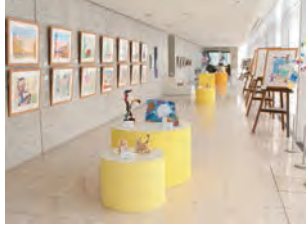
# Report

## 第18回 風土記の丘の美術展

2019年7月15日(月・祝)～8月18日(日)

場所:美術館ロビー 主催:郡山市立美術館、郡山市小学校造形教育研究会

夏休み期間恒例の「風土記の丘の美術展」。市内を5つの地域に分けて、週替わりで展示しました。郡山市内の小学生が図工の授業で作り上げた、感性豊かで色とりどりの作品が並びました。



## 第14回 風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ!

2019年8月3日(土)

講師:小中学校の先生 場所:多目的スタジオ

図工や美術の授業内容を体験できるワークショップです。木材やカラフルな材料を使った工作や、楽しいゲームなど様々なテーマのコーナーがあり、子どもから大人まで大勢の人でにぎわいました。



## アート・トーク

### 2019年度 第2回「ジャパンプルー」

2019年7月27日(土)

講師:福本潮子さん(染色家)  
場所:多目的スタジオ

インド、アフリカなど他の国の藍色とは少し違う色を持つ、日本の藍色「ジャパンプルー」。福本さんの染色による表現を解説していただきながら、色が持つ力を改めて感じられる内容でした。



### 2019年度 第3回「色香と艶の日本文化」

2019年9月28日(土)

特別講師:井上章一さん  
(国際日本文化研究センター教授)  
場所:多目的スタジオ

日本文化の特性やその現代的な傾向について、ご自身が体験されたエピソードを交えてお話しいただきました。軽妙な語り口で大変示唆に富む内容でした。



## フジフィルム・フォトコレクション展関連

### 講演会「日本の写真史をひもとく」

2019年5月18日(土)

講師:飯沢耕太郎さん(写真、映像評論家)  
場所:多目的スタジオ

写真の歴史と展示作品およそ半数について丁寧に解説いただき、写真鑑賞がより面白くなる内容でした。



### ワークショップ

### 「簡単自作ピンホールカメラでインスタント写真を撮ってみよう」

2019年6月22日(土)、23日(日)

講師:増谷寛さん(植田正治事務所)  
協力:富士フィルム株式会社、株式会社コンタクト  
場所:企画展示室前

缶など身近な素材を使ったピンホールカメラで、カメラの原理を学びながら撮影を楽しみました。



## くまのパディントン™展関連

### 講演会「イギリス児童文学の系譜:ナーサリー・ライムから『くまのパディントン』まで」

2019年8月11日(日)

講師:河野芳英さん  
(大東文化大学教授・本展学術協力者)  
場所:企画展示室

ナーサリー・ライム(伝承童謡)からピーター・ラビット、そしてパディントンにいたるイギリス児童文学の特徴などについて解説していただきました。



### グリーティング・イベント

### 「パディントンが美術館にやってくる!」

2019年7月15日(月・祝)、20日(土)  
8月25日(日)、9月8日(日)

場所:企画展示室前

美術館にごあいさつにやってきたパディントンが、来館者と一緒に記念撮影などをして楽しいひとときを過ごしました。



# Information

## 第11回 風土記の空 ～郡山市内の中学校美術部による作品展～

会期：11月19日(火)～12月24日(火) 郡山市内の中学校の美術部の活動で制作された、個性豊かな作品が並びます。中学生が作品を自分自身で額装し、展示するという体験も実施しました。みずみずしい感性にあふれた作品を、ぜひご覧ください。

会場：美術館ロビー(入場無料)  
主催：郡山市立美術館



出品校：日和田中学校、守山中学校、郡山第四中学校、郡山第五中学校、郡山第七中学校、緑ヶ丘中学校、小原田中学校(計7校)

郡山市立美術館  
文化講座

### アート・テーク

2019年度 第5回「色は言葉でできている」

日時：3月21日(土) 午後2時から

講師：佐治ゆかり(当館館長)

場所：多目的スタジオ(入場無料)

申込不要

様々な領域で、民族の文化や精神の根底に関わる存在である「色」。色彩としての色だけではなく、その色の在りよう、人間との関わり、色をめぐる感情などが、「色」を規定しています。私たち日本人が色をどのように呼び、記しているか、色と言葉の関係に着目し、日本の色について考えます。

企画展関連イベントにつきましては3ページをご覧ください。

### 休館のお知らせ

2019年12月28日(土)～2020年1月3日(金)は年末年始の休館となります。

また、諸設備点検等のため、  
下記の期間を休館とさせていただきます。

2020年2月1日(土)～2月29日(土)

ご利用の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、  
ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



## TOPICS



130 CAFE  
ジュジュイチサンマルカフェ

営業時間 / 11:00-17:00  
電話 / 024-942-2250

自家製ワッフルに新メニューが登場！

WAIFLE Chocolate & Flamboise ver.  
ワッフル ショコラとフランボワーズ

良質シュガーを使用した しっかりとした焼き上がりの自家製ワッフルに新メニューが登場。  
ココアを練り込んだワッフルに酸味のきいた鮮やかなフランボワーズ&バニラのジェラートをトッピング。  
セットのお飲物は豊富なドリンクメニューからお好きなものをお選び頂けます。

単品770円 / ドリンクセット1,190円



メニューや料金、営業時間は予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

郡山市立美術館  
Koriyama City Museum of Art  
発行日・令和元年10月30日

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2  
TEL.024-956-2200 FAX.024-956-2350  
<https://www.city.koriyama.lg.jp/bijutsukan/>

敷地内禁煙



紙へリサイクル可  
この印刷物は、適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。